

会 議 要 旨

(1 / 6)

会議の名称		令和 6 年度第 2 回川越市自殺対策連絡会議
開催日時		令和 7 年 1 月 10 日 (金) 14 時 00 分 開会 ・ 15 時 10 分 閉会
開催場所		川越市保健所 大会議室
議長		埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック教授 吉益晴夫
出席者氏名 (人数)		別紙のとおり (13 名)
欠席者氏名 (人数)		別紙のとおり (3 名)
事務局職員 職 氏 名		川越市保健所長 丸山浩、副所長 比留間雅彦、 保健所参事 後藤知美、 保健予防課長 福田英一、 副課長 岩間亜希、 主査 伊藤陽平、 主査 藤井拓実
会議次第	1. 開会 2. 議題 (1) 国・県の自殺対策の動向について (2) 川越市の自殺者の現状について (3) 令和 7 年度の自殺対策事業について 3. その他 (1) 横断幕について (2) こどもホームページについて (3) 鉄道街頭キャンペーン (自殺対策強化月間) について (4) 各委員からの報告及び意見交換 4. 閉会	
配布資料	・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ 資料 1 国・県の自殺対策の動向について ・ 資料 2 川越市の自殺者の現状について ・ 資料 3 令和 7 年度の自殺対策事業について ・ 資料 4 横断幕について ・ 資料 5 こどもホームページについて ・ 資料 6 鉄道街頭キャンペーン (自殺対策強化月間) について ・ 埼玉いのちの電話機関誌	

議 事 の 経 過	
事務局	1. 開会 傍聴者は1名。
事務局	2. 議題 (1) 国・県の自殺対策の動向について (2) 川越市の自殺者の現状について 事務局より、資料1、2に基づいて説明。
議長	【委員の意見】 川越市の自殺者の現状については一般に公開されるものか。 予定があれば教えてほしい。
事務局	今回の配布資料は全て公開できる資料を用いて作成しており、会議の結果として会議録とともに市ホームページに公開予定。
委員	資料1、国の自殺対策の2番目、「SOSの出し方に関する教育の推進」について、具体的にどのような教育が行われているのか。
委員	SOSの出し方に関する教育は、文科省からも通知が出ている。埼玉県が中心となり、子供たちの悩みや不安、心の不調を早期発見、対応し、困難を抱える児童生徒を支援するための体制の強化という形で研究を進めている。 具体的には、子供たちに、心の不調や病気は誰にでも起きることなんだよ、そういったものは早めに相談することが大事なんだよ、または友達からそういうことを相談されたときは、こうやって対応するんだよというような指導をしている。 埼玉県では東京大学とタイアップして「学校におけるメンタルヘルスリテラシーの向上に向けた教育の研究」を実施し、本市でも「メンタルヘルス研究推進校」を委嘱され、昨年度までの3年間実施しており、小中学校に対してこれらの活動を進めている。
事務局	(3) 令和7年度の自殺対策事業について 事務局より、資料3に基づいて説明。

議 事 の 経 過	
委員	【委員の意見】 今年度から5月の自殺予防の取組を行ったことと、今年の5月の自殺者数が昨年に比べて10人減っているということ、これらが関係しているのかどうかはまだわからない状況ではあるが、引き続き市独自で5月の取組を進めたい。 広報川越5月号にオーバードーズの記事を掲載するほか、市ホームページでもオーバードーズに関して記載したいと考えている。 また、国でも子ども・若者への自殺対策の更なる推進に取り組んでいることもあり、来年度のゲートキーパー養成研修は小・中学校の養護教諭を対象に行いたい。 また、鉄道各社にご協力いただいている「命の大切さを伝える」鉄道ポスター展については、鉄道の飛び込み抑止以外に、市内の中学生高校生に参加していただくことで、若者に命の大切さを知っていただく機会にしたいという思いもあり、今後とも、鉄道各社にご協力をお願いしたい。
議長	オーバードーズの件は、医療機関でも近年非常に重要な問題とされている。 今までは、病院で処方された精神的な薬を過量に飲んでしまうというものだったが、最近では、鎮咳薬や鎮痛薬といった内科的な薬をたくさん飲む。または薬局に普通に売られている薬をたくさん飲むというようなことが、注意喚起されている。
事務局	3. その他 (1) 横断幕について (2) こどもホームページについて (3) 鉄道街頭キャンペーン（自殺対策強化月間）について 事務局より資料4、資料5、資料6に基づいて説明。
委員	【委員の意見】 こどもホームページのなやみごと相談には、こころの相談以外にも掲載されている。例えば、「いじめに悩んでいるときは」、「ひとりで悩まないで!」といったヤングケアラーの相談、「親に叩かれたり暴言を受けたりしていませんか?」といった児童虐待防止SOSセンターに繋がる電話番号なども掲載している。 できれば、教育委員会から学校に周知して、児童生徒にも、相

	議 事 の 経 過
委員	談ページがあるということを周知していただきたい。 (4) 各委員からの報告及び意見交換 川越市内の公立学校における自殺問題の状況について情報提供。 昨年12月18日付で県から教育委員会を通じて改めて自殺予防に向けた取組を推進するよう通知が来た。昨年11月末時点での自殺が疑われる事案数が、昨年度の同時期の数を大きく上回っている。県内の小中学校・高等学校に関しては、非常に深刻な状況である。 11月末現在の市内の状況は、自殺が疑われる案件というより、自殺に関連すると思われる事案、特にリストカットやネットへの希死念慮の書き込み等に幅を広げて確認しているが、昨年度同時期と比較して増加している。わかりやすいのは、今まではこういった事例は小学校ではほとんど発生してなかったが、小学校でもこういった事例が出てきている。 これらの背景として、我々としては、学業不振、進路問題、家庭問題、精神面の不安定さ、性に関する悩み、いじめ問題を含む友人関係との悩みなどがあると分析している。 これらを踏まえて、教育委員会としては、新たに三つの方向性で自殺予防対策に関する取組をさらに進めていく。 方向性の一つ目は、改めて児童生徒が相談しやすい環境づくりに関する取組を推進していきたい。 具体的には、そもそも論ではあるが、まず教員と児童生徒との良好な関係の構築が必須だと考えている。子供たちが安心して相談できる、そういった信頼関係が非常に重要と考え、改めてクローズアップしていきたい。また、各学校にある教育相談部会を中心としたケース会議等の対応にも注力していく。また、関係機関との連携として、さわやか相談員、スクールカウンセラー、市教育委員会の相談機関リベラー、医療機関等を含めた連携を深めて、まずは相談しやすい環境作りの推進を進めていきたい。 方向性の二つ目は、相談窓口の周知である。先ほどのこどもホームページの周知希望もあわせて、教育委員会としてもぜひこの相談窓口の周知に努めてまいりたい。こどもホームページの周知のほか、県教育委員会の資料、いじめ問題等に関する市内の相談窓口の周知、それから国の政策にもあったICTを活

議 事 の 経 過	
	用した取組も市内で進めている。今は1人1台のタブレットに相談窓口につながるアプリを導入し、そこから簡単に相談ができるというシステムを構築している。 方向性の三つ目は、予防的な対応である。 予防的な対応の一つ目に、命の大切さを深める教育の推進。性教育も含め、まずは一人一人の子供たちが尊い命であると、改めて教育をしていくことを推進する。 予防的な対応の二つ目は、先ほどの「SOSの出し方に関する教育」の推進。特に川越市は研究推進校として今年4年目を迎えており、教育委員会としてはこの取組に改めて注力していきたい。先日の校長会でも全校で実施をしていただきたいとしており、今後我々も学校訪問をして実施確認をしていく予定である。 最後にネットパトロール事業の推進として、現在インターネット上の監視を業務委託している。子供たちのスマホや一般のPCの書き込みに対するそういったものに関しても監視をし、子供たちの書き込みから自殺に関する内容が発覚した場合には学校への通知も含めて予防に努めてまいりたい。
委員	【委員の意見】 一人一台タブレットから相談窓口へ繋がることや「SOSの出し方教育」は何かの授業なのか、それともホームルームでやるのか。
委員	「SOSの出し方の教育」は、各校の教育課程の学級活動の時間というのがあり、それを活用してもらうか、保健体育の時間を使って指導を行う。
委員	「埼玉いのちの電話」広報をご覧いただき、法人の活動について知ってほしい。 同法人の事業として、2月11日（火・祝）に彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールにて県内の高校4校が参加する合唱コンサート、また3月15日（土）に大宮ソニックシティ小ホールにて映画「夜明けのすべて」のチャリティー上映会を実施する。リーフレットを配布するので周知にご協力いただきたい。 また、生成AIを活用したサービスの新聞記事を紹介する。児童生徒に配布しているタブレットを使用して、このような

議 事 の 経 過	
委員	AI 相談はできるのか。 AI の活用については、是非も含めて今後教育委員会でも研究していきたい。そのための有効な情報として受け止めたい。 【委員の意見】 なし
事務局	現在の委員の依頼期間は、令和 7 年 4 月 30 日までとなる。4 月に改めて委員の推薦依頼をする予定。 4. 閉会